

講義名	中国語グローバル基礎【GSP用】		
科目区分	グローバル		
担当教員	関 梅		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>この授業はグローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）学生を対象とした「中国語A・B」の続きである。一年次の「中国語A・B」で習得したのも確認しながら、その上でレベルアップを図っていく。また、「読む・書く・話す・聞く」の4技能に力をつけていきながら、中国語検定4級レベルの達成を目指す。ハードな授業になることが予想されるが、受講者の可能性を最大限に伸ばしていくことが、この授業の大きな目標である。</p>			

到達目標			
中国語検定4級に合格できる			
4技能に関する到達目標			
聞く：日常会話の内容を聞いて分かる			
話す：日常会話の質問と答えができる			
読む：300字程度の中国語の内容を理解することができる。			
書く：平易な作文ができ、内容の豊かな自己紹介文を書くことができる。			

提出課題			
毎回の授業では、学習内容の理解状況を確認するため、トレーニング用のプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行う。また、毎週宿題のプリントも配布する。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
前回の提出物の結果を講評し、理解の不十分の箇所を復習する。			

評価の基準			
提出物と授業中の取り組みによって評価する。			
原則としてオンライン授業に5回欠席、1/3以上期限内に提出物が提出しなかった場合は失格とします。			

履修にあたっての注意・助言他			
語学の授業は実践的なものなので、声を出すことをいとわず、活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価し、宿題の提出状況も評価の対象となりますので注意してほしい。			

教科書	
.教科書を使用しない。	

プリント資料及び参考文献	

授業計画	
第1回	Live/授業形態についての説明及び初級編の復習
第2回	Live/ワークシート配布：文法：二重目的語をとる動詞/助動詞“会”
第3回	Live/ワークシート配布：文法：存在の“有”/助動詞“可以”
第4回	Live/ワークシート配布：文法：接線の“”/動量詞
第5回	Live/ワークシート配布：文法：結果補語/方向補語
第6回	Live/ワークシート配布：文法：“把”構文/助動詞“能”
第7回	Live/ワークシート配布：文法：比較文/持続の“着”
第8回	Live/前半復習：ワークシート配布
第9回	Live/ワークシート配布：文法：様態補語/“是…的”構文
第10回	Live/ワークシート配布：文法：可能補語/文末の“了”
第11回	Live/ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法Ⅰ
第12回	Live/ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法Ⅱ
第13回	Live/ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法Ⅲ
第14回	Live/ワークシート配布：文法：さらなる一歩文法Ⅳ
第15回	Live/総復習：ワークシート配布：

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>語学の習得は授業外での努力は欠かせないため、毎回の授業の後に、復習、予習課題がある。そのための勉強時間も確保しなければならない。</p> <p>継続的に練習するのに、毎日の学習時間は1時間以上が必要。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	

実務経験の有無及び活用	
備考	
各回の授業では40以上の双方向形式で行う予定している。	